

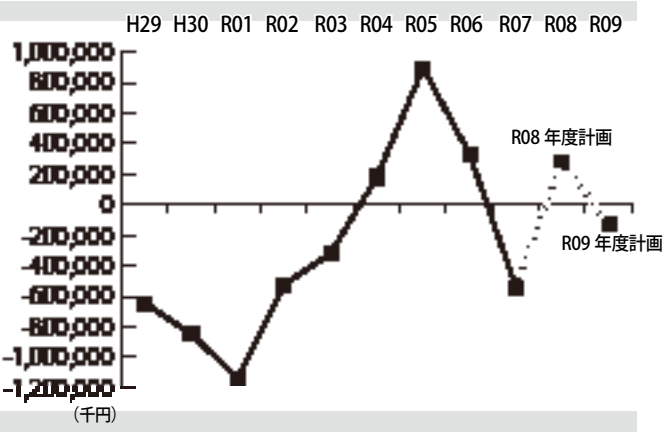
地域医療を守る 一経営状況と今後の経営予測一

厳しい経営状況に置かれているのは、滝川市立病院も例外ではありません。

コロナ禍以前より続いていた経常損失は、令和2年度に一時は黒字に転じ、令和4年度には現金不足を解消するまでに至りました。これはコロナの流行によって、市内のコロナ感染患者をほぼ一手に引き受け昼夜を問わず診療・治療にあたったためです。内科病棟1棟をコロナ専用病棟として稼働させるなど、地域の基幹病院としての役割を果たしたことで、国からの財政支援もありました。

しかし、令和6年度にはコロナに対する財政支援は打ち切りとなり、患者数もコロナ以前に戻ることはなく、医師数の減少や物価高騰による医業費用の増加などから、再び収益は大きく落ち込み、より一層の経営改善の取り組みが必要な状況となっています。

滝川市立病院現金残高の推移



一持続可能な医療を目指して一

地域医療を守るためには、病院を維持していく必要があり、病院維持のためには経営基盤の強化が欠かせません。経営状況の落ち込みに歯止めをかけるため、滝川市立病院は今、病床数の適正化や業務の見直し、医師の確保対策など、職員が丸となり大きな改革と改善の取り組みを行っています。

全国的にみても公立病院は厳しい環境に置かれていますが、滝川市立病院を私たち市民の病院として、中空知の基幹病院として、最後の砦を崩さないためにも、多くの市民の皆さんに現状と取り組みを知っていただき、一緒に支えていくことで持続可能な医療の実現につなげていきます。

改善の取り組み

市民の暮らしに欠かすことができない医療。いま滝川市立病院では、未来を見据えた大きな改善を進めています。……………

病床数の見直し

314床あった病床を現在の医療需要にあわせて今年4月から199床へ減少。安定的な入院稼働率を維持しながら、人材や設備を集約し、効率よく質の高い医療の提供を行います。



医師の確保



医師が充足していない診療科への医師の招へいを積極的に行います。急性期医療・二次救急医療機関として、診療機能の維持に努め、安定医療を提供していきます。

経営改善検討会議の設置

厳しい経営状況を改善するため、医師や看護師、医療技術員や事務職員など、職種の垣根を超えて、病院全体で診療体制の見直しや経費節減など、経営課題への取り組みを行っています。



人員の適正化

病床数の削減にあわせ、病院全体の人員を見直し、医療機能に見合った職員数とすることで収支のバランスを図っていきます。職員の負担が増加しないよう、業務の見直しや再編を進めます。



かかりつけ病院機能の強化



今年4月から新たに「かかりつけ病院機能」の診療報酬が得られるようになりました。身近で手厚い医療を目指して地域の皆さんの安心を支えています。

一般会計の繰り入れ

市の一般会計からの繰入金はこれまで、市立病院の経営努力や市の財政状況を踏まえ、国が示す基準に満たない額でしたが、令和7年度から「市立病院経営強化プラン」に基づき、国の基準通りの額としています。

特集 地域医療を守る 滝川市立病院



医療現場は今、人口減少や高齢化社会による医療ニーズの変化、患者の減少による経営への影響など、さまざまな課題を抱えています。本特集では市立病院の現状と課題、そして未来への取り組みを紹介し、持続可能な地域医療について考えていきます。

公立病院は 命と健康を守る最後の砦<sup>とりで</sup>

公立病院（都道府県や市区町村などの地方自治体や地方独立行政法人などが開設・運営する医療機関）は、へき地における医療確保や、救急・小児・周産期・災害・精神などの不採算部門・特殊部門に係る医療、民間病院では限界のある、高度・先進医療など多くの役割を担い、いわば地域住民の命と健康を守る「最後の砦」となっています。

変化する地域医療と 公立病院を取り巻く環境

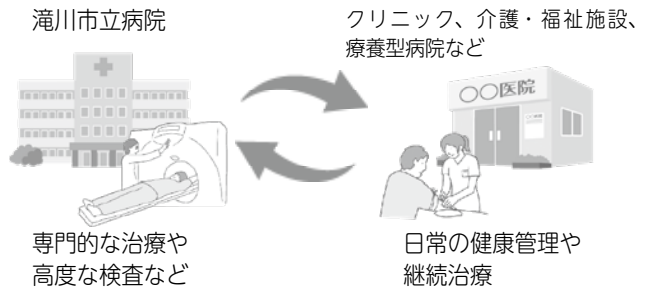
近年、急速な少子高齢化による人口減少に加え、令和2年には新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）の流行による受診控えなど、全国的に医療機関の患者数は大きく減少しました。令和5年にコロナが5類感染症に移行後も、患者数はコロナ禍前には戻っていない状況です。一方で物価高騰や人件費増加による医業費用の増加から、令和6年度決算で経常利益（黒字）が生じた公立病院は、全国でわずか16・7%※で、全国の8割強の公立病院で経常損失（赤字）が生じています。

公立病院が抱える課題解決のため、公立病院の経営の効率化や公立病院同士あるいは民間病院との病床機能（患者の病状や提供する医療による区分）の再編や統合などが求められるなど、病院を取り巻く環境は急激に変化しています。

※出典・総務省「公立病院の現状と課題について」（令和7年10月28日）

滝川市立病院の担う役割

- 急性期・二次救急医療の提供  
急病等急性期患者の受け入れ



- 地域医療連携  
近隣医療機関や介護施設と連携した、地域完結型医療の推進
- 精神科救急医療  
緊急の診療や入院を必要とする患者の受け入れ
- 小児・周産期医療  
妊娠・出産や小児救急など中核病院と連携した地域拠点機能
- 臨床研修・専門医研修機能  
研修・教育施設とした医師育成拠点としての役割

―新院長となり3か月が経過しましたが、改めて感じていることや、今後注力していきたいことは―

想像以上に業務が多く、特に病院経営については、常に状況を注視し判断する必要があり、その責任の重さを日々実感しています。一方で、多くの職員や地域の皆さまに支えられ病院運営に携われることに、大きなやりがいも感じています。

今後の病院経営で最も重要なテーマは、「医師の確保」「経営の安定化」「医療の質の向上」の三つです。

医師の確保は病院機能の根幹であり、大学からの医師派遣体制の維持・充実に加え、多角的な方法で医師確保に取り組んでいます。

経営の安定化については、院内で経営改善の会議を定期的開催し、不断の改善を積み重ねることで、持続可能な病院運営を目指しています。

医療の質については、医療水準の維持・

向上はもちろん、患者さんに寄り添う姿勢や接遇の質の向上も重要なテーマで、皆さまに信頼され、安心して受診いただける病院づくりを進めています。

人口減少が進み、患者数の大幅な増加が期待できない状況で、いかに安定した病院経営を実現するかが大きな課題です。地域の急性期医療を担うために必要な医療人材の確保と、その質の向上も重要と考えています。

公立病院には、不採算であっても地域に必要な医療を担う使命があります。その役割を果たし続けるためにも、収益の確保と支出の適正化を着実に進め、持続可能な経営基盤を築いていくことが喫緊の課題であると認識しています。

―市立病院の役割や他の医療機関との連携について―

当院は、地域の急性期医療機能と、かかりつけ病院機能を併せ持っているため、その役割を着実に果たしていく必要

があります。

地理的特性や人口動態を踏まえた将来の医療需要を見据えながら、近隣医療機関と緊密に連携をして、それぞれの役割分担を明確にし、情報共有をさらに充実させることが重要です。地域全体で医療を支える体制づくりに積極的に取り組んでまいります。

現在、地域医療連携推進法人の設立に向けた準備組織を作り、検討を進めています。去る7月3日に公表された、地域医療構想のガイドラインを基に、地域の医療機関がそれぞれの強みを生かしながら役割を分担し、より質の高い地域医療体制の構築を進めていきたいと考えています。

―新院長体制で目指す市立病院の未来について―

皆さまからいただくご意見やご要望に十分な対応ができず、歯がゆい思いをすることもあります。また、医師の不足などにより、ご不便をおかけする場面もあるかと思いますが、地域の皆さまが安心して受診していただける医療体制の確保に努めてまいります。

医療は病院だけで成り立つものではなく、地域の皆さまのご理解とご協力によつて支えられています。職員一人ひとりが誇りを持って働き、地域の皆さまとともに歩みながら、「この地域にこの病院があつて良かった」と思っていただける病院を目指してまいります。

―編集を終えて―

安心して住み慣れたまちで暮らすために欠かせない「医療」。風邪から高度先進医療までひとつの医療機関で補えるのが理想かもしれませんが。

しかし今、医療は広域で考えなければいけない時が来ています。気付いたら、まちから病院がなくなっていた…ということがないよう、一人ひとりが一緒に考え地域医療を支えるときです。

## 地域医療の未来

令和8年4月1日に市立病院の新院長に就任した松川院長の医療への思い。



滝川市立病院  
松川 雅則 院長

## 地域医療を守る一私たちの思い



患者さんにとって安心できる存在になれるよう、自分の家族だったらどう思うのか常に考え、日々の関わりを大切にしています。病気の治療だけでなく、退院後の生活支援や介護サービス、退院先の調整など、その人らしく安心して生活ができるよう支援することが必要だと思います。看護師は、専門知識や技術を生かし、患者さんに寄り添いながらその人らしい生活ができるように関わっていけるやりがいのある仕事です。



地域医療室の大切な役割のひとつに退院支援があります。退院後どんな生活をしたいのか、患者さんやご家族に寄り添い、一緒に考え、最後は患者さんやご家族が自己決定できるようサポートします。患者さんの望む暮らしができるように、ケアマネジャーや施設スタッフ、相談支援専門員など関係機関と連携し、支援をしていきます。どこに相談したら良いかわからない困りごと、まずは地域医療室にご相談ください。



今、病院は厳しい局面にあります。が、職員一人ひとりが、仕事にも、病院運営にも真摯に取り組みんでいます。どの職員からも患者さんの命と健康を預かっている責任感が伝わってきます。患者さんの信頼を得ることは、経営の改善には必要不可欠です。職員もその意識を高く持っています。その姿を見て、自分も真剣に議論して良い病院にしたいと強く思いますし、病院の改善に取り組んでいく力をもらっています。

## 市立病院だから、できること。

市立病院の総合力を生かし、地域連携や患者さんの継続サポートなどを行っています。健康維持・病気の早期発見に、お手軽健診も実施中。



### 地域と人を支える 地域医療連携

地域の皆さんにより良い医療を提供するため、市立病院は医療連携を行っています。

地域内の病院や医院、クリニック、診療所等と連携を図り、患者さんの病状に適した病院などの紹介や、他病院の情報を提供しています。

### 医療の総合窓口「地域医療室」

安心して療養生活を送ることができるよう、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士が在籍し、連携して患者さんをサポートしています。

- 市内の複数の介護保険施設等の協力医療機関として患者さんの病状の共有や急変などに対応
- 入院前の不安や負担を軽減し、安心して入院生活が送れるよう、看護師が入院前面談を実施
- 退院後の療養や生活に不安や心配がある患者さんやご家族へ退院支援を実施
- 外来受診や介護保険、労災など医療全般の相談業務

### 訪問看護ステーション そらのわ

市立病院内に訪問看護ステーション「そらのわ」が誕生。入院中に訪問看護の相談ができ、退院後も自宅で、“その人らしく”過ごせるよう継続して支えています。

自宅で生活している方で訪問看護を希望する方は、外来時に相談いただくか、直接訪問看護ステーションに相談することができます。



### 早期発見で医療負担を軽減「お手軽健診」

気になる項目を1項目から、または組み合わせで選び、気軽に手軽な金額で受けられるお手軽健診を行っています。

1項目 550円～、検査結果は1週間後に自宅に届きます。



## これからの中空知の医療―地域医療構想とは―

地域医療構想とは、地域の実情に応じて、必要な医療を将来にわたって提供できるよう、医療機関の役割分担と連携を進める取り組みです。

中空知地域は、道内で唯一、国から地域医療構想を推進するための「モデル推進区域」の設定を受けて、国や北海道の伴走支援のもと、議論が進められています。

まずは、中空知地域医療の持続可能な医療提供体制の構築を目的とした新組織（地域医療連携推進法人）の設立に向けて、各自治体病院等と協議しながら準備を進めています。

今後、中空知地域の病院と機能分担しながら持続可能な地域医療提供体制の構築に貢献していきます。